現代東アジア映画研究会

研究代表者：間宮琴子（先端総合学術研究科2回生）

研究課題：現代東アジア映画の鑑賞を通じて、それぞれの国における文化・社会背景を理解する。

開催概要
開催日：毎週金曜日
開催時間：15:30～
開催場所：学而館202
開催回数：37回

鑑賞映画
香港映画
『いますぐ抱きしめたい』、『欲望の翼』、『恋する惑星』、『天使の涙』、『ブエノスアイレス』、『花様年賀』、『2046』、『グランドマスター』、『イップマン 序章』、『イップマン 葉問』、『イップマン 継承』、『イップマン 完結』

台湾映画
『風が踊る』、『風櫃の少年』、『童年往時』、『ナイルの娘』、『坊やの人形』、『無聲』、『青春18×2 君へと続く道』、

韓国映画
『PHANTOM／ユリョンと呼ばれたスパイ』、『グリーンフィッシュ』、『ペパーミント・キャンディ』、『オアシス』、『シークレット・サンシャイン』、『ポエトリー アグネスの詩』、『ユンヒへ』、『あしたの少女』、『8月のクリスマス』、『春の日は過ぎゆく』、『世宗大王 星を追うものたち』、『バトル・オーシャン 海上決戦』、『ハンサン 龍の出現』、『ノリャン 死の海』、『KCIA 南山の部長たち』、『ソウルの春』、『THE MOON』

中国映画
『ふたりの人魚』、『パープル・バタフライ』、『天安門、恋人たち』、『スプリング・フィーバー』、『パリただよう花』、『二重生活』、『シャドウ・プレイ』、『ラスト・コーション』、『無名』、『ボーン・トゥ・フライ』、『流転の地球』、『流転の地球 太陽系脱出計画』、『宇宙探索編集部』、『小さき麦の花』、『緑の夜』、『兎たちの暴走』

研究成果と今後の課題
・前年度に引き続き、参加メンバーは東アジア映画を通じて、東アジアの現代史、社会状況について基礎的な知見を得ることができた。また、昨年度の活動の成果でもあるが、参加者の映画を分析する能力が向上し、映画研究の基礎的な用語を使用した議論が可能となった。
・課題として、2年間にわたって日本以外の東アジア映画を検討してきたが、日本の不在が挙げられる。本会が主に扱う80年代以降は、日本ではアニメーション産業が盛り上がりを見せる時代であり、東アジアを捉えるうえで次年度は、日本のアニメーション作品にフォーカスすることが合意された。